

今週の為替相場見通し(2020年2月17日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		109.57 ~ 110.15	109.77	108.10 ~ 109.90
ユーロ	(ドル)		1.0827 ~ 1.0957	1.0831	1.0600 ~ 1.0900
(1ユーロ=)	(円)		118.87 ~ 120.32	118.90	117.00 ~ 119.70
英ポンド	(ドル)		1.2873 ~ 1.3069	1.3046	1.2900 ~ 1.3100
(1英ポンド=)	(円)	*	141.24 ~ 143.48	143.21	141.50 ~ 143.90
豪ドル	(ドル)		0.6657 ~ 0.6750	0.6715	0.6650 ~ 0.6850
(1豪ドル=)	(円)	*	73.03 ~ 74.30	73.69	72.50 ~ 74.50

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 尾身 友花

(1)今週の予想レンジ: 108.10 ~ 109.90 円

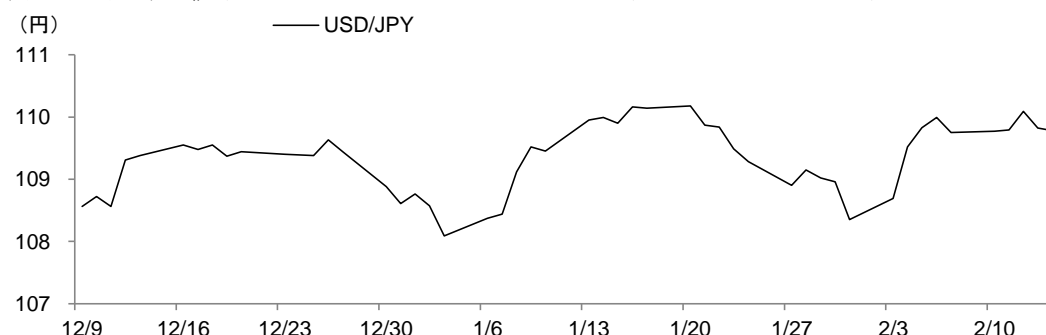
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は週半ばに110 円を上抜ける展開。週初10 日に109 円台後半でオープンしたドル/円は、新型コロナウイルスが依然感染を拡大していることが嫌気され上値は重く、米金利の上下に伴い狭いレンジでの推移が続いた。11 日は、トランプ米大統領が米国政策金利の引き下げを主張したことでアジア株が上昇し、じり高の展開となったが、東京祝日で閑散取引の中、上昇は続かず、小幅に反落した。12 日はアジア株が底堅く推移しドル/円も堅調地合で推移した。その後、欧州株や米株先物の上昇を好感した円売りに一時週高値の110.15 円まで上昇した。その後パウエルFRB 議長の議会証言を受けて小幅に下落したが、高寄りした米株や米金利の上昇に伴い、じり高の推移が続き、再度110 円台を回復した。13 日は新型コロナウイルス感染例が急増し、109 円台後半まで下落。その後も上値の重い展開で、NY ダウ平均が一時200ドル超下落すると、109.62 円まで下落した。14日は軟調な株価を背景に109 円台後半での推移が継続した。

今週のドル/円は底堅い推移となりそう。但し、110円付近で上値が伸びづらい相場が継続すると予想する。新型コロナウイルス感染拡大の懸念を受けてドル/円は一時円高が進行する場面が見られたものの、米経済指標の好調な内容や株価の続伸を背景としたドル高から109円台を中心とした堅調な展開が続いている。新型コロナウイルスについては感染者数の増加が伝えられるなど終息の目処が立たない中、ネガティブなヘッドラインが円高を一時的に推し進める要因として引き続き残るだろう。また、ECBによる金融政策のハト派傾斜が伺えつつある中、EUの冴えない経済指標を背景にユーロ安が急激に進行している。ユーロ/円も連れ安のトレンドとなっており、ドル/円の上値を抑える要因となるだろう。この為、週後半にかけて発表されるユーロ圏のPMIが悪化すると円高が進行する可能性には注意したい。また、今週はFEDメンバー講演が複数予定されているが、FRBが昨年利下げの中止を宣言してから金融政策への期待がニュートラルに感じられる。寧ろ、19日(水)ネバダ州における民主党候補者討論会の様子や23日(日)ネバダ州党員集会などの米大統領選に対する相場の反応の方が膠着相場の行方を示すヒントとなりそうだ。

(3)先週末までの相場の推移

先週(2/10~2/14)の値動き: 安値 109.57 円 高値 110.15 円 終値 109.77 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

市場営業部 為替営業第二チーム 上野 智久

(1) 今週の予想レンジ: 1.0600 ~ 1.0900 117.00 ~ 119.70 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場は週後半に約3年ぶりの安値をつける展開。週初10日に1.09台半ばでオープンしたユーロ/ドルは、EU経済の景気後退やドイツの政局不安などの懸念材料が燃る中、じりじりと値を下げ1.09付近まで下落。11日は、新規材料に乏しかったもののユーロ売りが強まり、昨年10月以来となる1.09を割り込む展開となった。12日はユーロ/円の上昇に連れ高となった局面もみられたが、ユーロ圏12月鉱工業生産の弱い結果を受けて上値の重い推移。その後は、米金利の上昇もあり1.09を下抜けると、EUの冴えない経済指標のほか、ブレクジット交渉進展やドイツ政局への懸念が高まったことでユーロ/ドルは軟調な推移が続いた。13日は米金利の低下を受けて一時値を上げたが、新型コロナウイルスの感染拡大懸念で下落するユーロ/円に圧迫され下落。その後も、英国でジャビド財務相が辞任するとの報道を受け英政府が今後歳出を拡大する見方が強まったことでユーロ/ポンドに連れ安となり、一時2017年4月以来の安値1.0834をつけた。14日も独第4四半期GDPは前期比伸び率が0%と、マイナス成長は逃れたものの成長率の鈍化が意識されたことで、軟調な推移が続いた。下値を模索する中で1.0827まで軟化し、同水準で越週している。

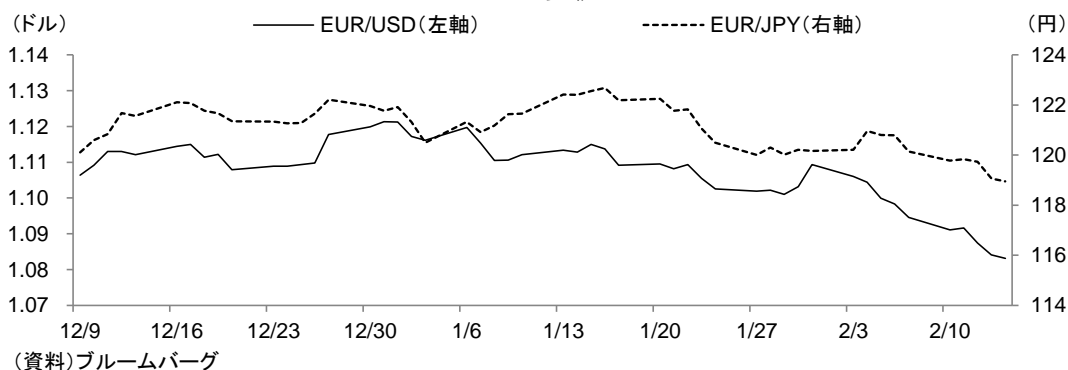
今週のユーロドルは上値の重い展開を予想する。先週のユーロ/ドルは2年10ヶ月ぶりの水準まで値を落とす展開となった。ユーロ円も約4ヶ月ぶりの水準まで下落。メルケル首相の後継候補とされた最大与党クランプカレンバウアー党首の退任表明に端を発するドイツの政局不安、ならびに独鉱工業生産指数や独第4四半期GDPなど冴えない欧州指標の発表を受けて、ユーロ圏の政局・経済の状況に悲観的な見方が強まった結果といえる。外部環境としても、新型コロナウイルス対策の続く中国での経済活動の停滞、欧州地域においても新型コロナウイルスの感染拡大などのヘッドラインが散見されるなど、暗雲が立ち込めている状況。欧州はもとより世界経済の先行きにも悲観的な見方が広がりやすい状況である中で、ドルの資金需要が高まっている状況もIMMの通貨先物のポジションで確認できる。足元の政局・経済に不安を抱える欧州において、積極的にユーロが基軸通貨であるドル、ならびにリスク回避通貨とされる円に対して強含む展開は想定しにくい。自発的な反発は望みにくく軟調な推移が続くものと考えている。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(2/10~2/14)の値動き:

(対ドル) 安値 1.0827 高値 1.0957 終値 1.0831

(対円) 安値 118.87 高値 120.32 終値 118.90



3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1) 今週の予想レンジ: 1.2900 ~ 1.3100 141.50 ~ 143.90 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、堅調な滑り出しから、13日に一段と水準を切り上げ、そのまま高値圏で週の取引を終えた。実のところ、週明け10日のポンド相場は下押しで始まった。前週末の下押しの流れを引き継いでか、アジア市場の開場に前後して対円で141.22、欧州勢の参入に前後して対ドルで1.2873、対ユーロで0.8505まで下押ししたポンドは、同水準をそれぞれ週の安値として反発。この局面のポンド反発は対ユーロでの上昇が引っ張ったように見えた。値動きからだけの推測だが、0.8500割れ水準にまとまったポンド買い注文があったのかもしれない。翌11日発表された英10～12月GDP暫定値は、前年比+1.1%が市場予想(+0.8%)を明確に上回った。同時に発表された英12月鉱工業/製造業生産は市場予想を下振れた一方、同商品貿易収支は予想外の黒字と交錯した内容になったものの、GDPの上振れをポンドが好感して堅調な値動きを見せた可能性は考えられただろう。12日にも堅調推移を維持したポンドは、翌13日一段と水準を切り上げた。ジョンソン首相が発表した内閣改造で、ジャビド財務相の辞任を発表、後任にスナク財務省首席政務官が任命された。予想外のこの人事を、市場は「英政府が大規模な財政出動に舵を切るための布石」「財政主導で英景気拡大」と読んでポンドは上昇した。同日中に対ドルで1.3069、対円で143.47、対ユーロで0.8296とそれぞれ週の高値まで上昇したポンドは、翌14日に調整的な小幅反落を見たものの、高値圏にとどまり、そのまま週の取引を終えた。

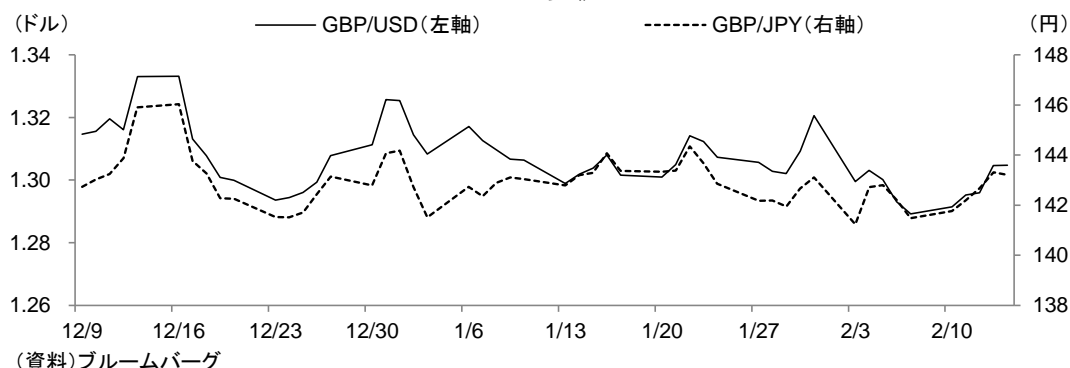
今週の英ポンド相場は、13日に観察された0.9%前後のポンド上振れ(対ドル、対円)を帳消しにするポンド安を予想。突然の財務相交代を市場はポンド買いと読んだが、そこまで好意的に解釈できない。元々残留派だったジャビド前財務相との比較で、(強硬)離脱派だったスナク新財務相が、EU離脱に伴う混乱/景気下押しリスクに対する安全網として積極的な財政政策を打ち出すのはほぼ間違いない。それによって、ある程度の英景気浮揚効果が期待できるのも確かだろう。英中銀が、財政政策の行方を見守ることで、1月に一時強まったような早期利下げ観測が再び盛り上がる可能性が遠退いたのもポンドには押し上げ要因と読めるかもしれない。しかし、ふたつの意味で、今回の財務相交代劇は不安を抱かせる。ひとつ目は、首相府による財務省の実質的な「吸収合併」がもたらす影響。スナク新財務相を、「大抜擢」とか「次の首相候補」などと持ち上げる声を一部で聞くが、つい数日前まではほぼ無名の5年生議員(3期目)に過ぎなかった。今般の財務相人事は、財政の「番人」として伝統的に財政規律を重んじる財務省が、ともすれば財政規律よりも景気浮揚を優先しがちな首相府の管理下にはいったことを意味する。それ故の積極財政期待なわけだが、英財政政策が抑制と均衡を欠く可能性は、英経済にとって決して良い方向性とは思えない。ふたつ目は、今回のジャビド前財務相の実質的更迭劇の筋書を書いたのが、カミングス首相首席特別顧問と見做されていること。「選挙で選ばれたわけでもないブリュッセルの官僚が権力を振り回すのが許せない」というのは、離脱派が好んで振りかざした議論だが、従来であれば英政府のナンバー2と言えるポジションを格落ちにしたのが、仮に巷間観測される通り、選挙で選ばれたわけでもない同顧問であったとしたら、離脱に投票した英国民はそれをどう受け止めるのだろうか。勿論、最終的な決断を下すのはジョンソン首相だし、上記はいずれも中期的な視点に過ぎない。だが、それを中期的と言うなら、積極的な財政出動による景気浮揚と言うのも、他にさまざまな要因(EUとの自由貿易交渉など)まで加味した中期的な要因に過ぎないだろう。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(2/10～2/14)の値動き:

(対ドル) 安値 1.2873 高値 1.3069 終値 1.3046

(対円) 安値 141.24 高値 143.48 終値 143.21



4. 豪ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 松本 奈保輝

(1) 今週の予想レンジ: 0.6650 ~ 0.6850 72.50 ~ 74.50 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドルは底堅い展開となった。週初10日は豪ドルは下げ止まる展開。中国1月PPI、CPIが予想を上回ったこと等を受け、一時0.6700台を回復するも、海外時間に米株式相場が底堅い動きを見せると、豪ドルは再び0.6680近辺まで下落した。11日は再び0.6700台定着をうかがう展開。豪12月住宅ローン額が予想を大きく上回ったことを受けて豪ドル買いで反応。またパウエルFRB議長の議会証言では今後の金融政策の変更を示唆する材料なかったものの、市場が米ドル売りで反応する中、豪ドル買いが進み、0.6730近辺まで上昇。12日は前日に引き続き豪ドル上昇する展開。RBNZが金利据え置きを決定する一方、声明文では必要なら追加緩和をするとの文言が削除され、NZドルが上昇。豪ドルも連れて上昇し、週高値の0.6750をつけた。13日は豪ドル上値重い展開。中国衛生当局が発表した新型コロナウイルスによる死者・感染者数が急増したとの報道を受けて豪ドルは一時0.6700ちょうど近辺まで売りこまれた。その後は、豪ドル底堅い値動き。ロウRBA総裁が豪州経済の見通しが上向いていること中国の経済刺激策は豪州にとってよい事と発言したことも豪ドル買いを支えたと見られる。14日は上値重い展開、特段材料ない中、0.6740付近から0.6708近辺まで下落する場面はあったものの、結局0.6700は割り込むことなくその後は反発。0.6719レベルで越週した。

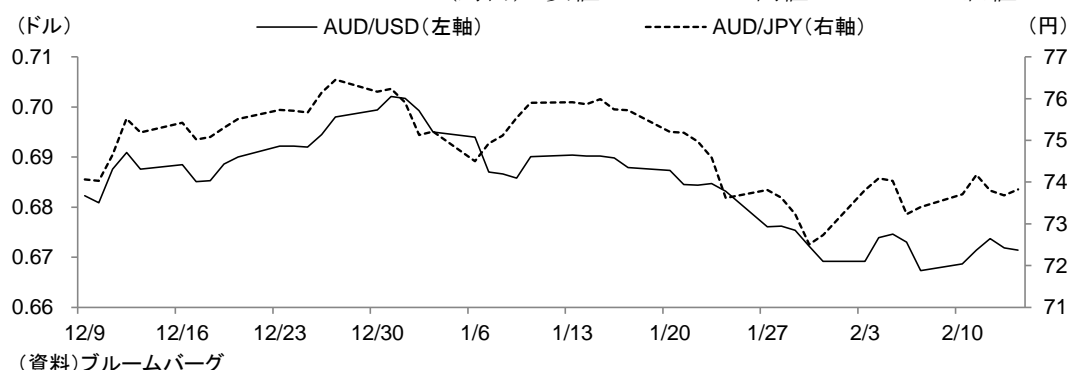
今週の豪ドル相場はもみ合う展開を予想。豪国内の森林火災や干ばつ、並びに新型コロナウイルスの影響が豪州経済への下押し材料になることが意識され、引き続き豪ドルの上値を限定させそう。一方、ロウRBA総裁がオーストラリア経済の見通しは上向いているとの見方を示しているほか、RBNZが声明文で「必要なら追加緩和をする」との文言が削除し、政策スタンスを変えたことで、RBAの利下げ観測も後退しており、金利面からは豪ドルの下値を支えそう。上下動きづらい展開となりそう。重要指標としては18日(火) RBA理事会議事要旨(2月4日開催分)、20日(木)1月豪雇用統計の発表が予定されている。RBAが労働市場の動向を注視するとの姿勢を維持している中、雇用統計で市場予想比良好な結果となれば、利下げ観測の更なる後退が豪ドル相場の下支えになる可能性があるだろう。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(2/10~2/14)の値動き:

(対ドル) 安値 0.6657 高値 0.6750 終値 0.6715

(対円) 安値 73.03 高値 74.30 終値 73.69



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。